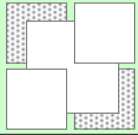


第2部 めざすべき都市像

めざすべき都市像



めざすべき都市像

基本的な考え方

一步先を行く ^{みどりと}緑 ^{えにしの}縁 ^{タウン}区 あさお

まちの資源を活かし、育むことにより、
まちの魅力を向上させ、持続可能な地域をつくる

- 1 地域資源を活かして、さらに質の高いまちを育みます
- 2 持続可能なまちを育みます
 - (1) 緑が保全され、環境への負荷が小さいまちをめざします
 - (2) 地域が自立できる産業があるまちをめざします
 - (3) 多世代が暮らせるコミュニティのあるまちをめざします

< 都市像の背景・視点 >

麻生区の特徴を活かす

- ・麻生区は、いにしえからの歴史や文化が残されているとともに、豊かな自然環境が残されています。さらに、住宅地としても良好な住環境が形づくられているとともに、新百合ヶ丘駅を中心に、芸術と文化の薫り高い拠点が形成されています。生活環境の質が高いまちであり、区民もそれを誇りに思い、将来に残していきたいと考えています。
- ・麻生区の特長とも言える、質の高い都市環境と田園環境、自然美と人工美とが混じり合い、その魅力を高めていくことをめざします。
- ・地域資源を活かし、豊かな緑を保全し、環境に負荷をかけないまちを育む環境面の取組や、都市農業や文化・芸術などの新しい産業と交流を育む経済面の取組、さらに、多世代が暮らせるコミュニティを育む社会面の取組により、持続可能なまちの形成をめざします。

選択性の高い生活を支えるまち

- ・多様化する市民ニーズや多様なライフスタイルに対応し、選択性の高い生活を送ることができるまちをめざします。

1 地域資源を活かして、さらに質の高いまちを育みます

文化・芸術、にぎわい、街の美しさなど、新百合ヶ丘に代表される都市的魅力がさらに高められ、生活の質が向上することをめざします。

柿生、百合ヶ丘などの歴史のあるまちは、その積み重ねられた歴史を活かして、街の魅力の向上をめざします。

質の高い住環境の住宅地は、少子高齢社会に対応した、健康・福祉、買物、高齢者の生きがい等に配慮した生活の基盤を充実させ、多世代が暮らせるまちをめざします。

里山や「農」のある風景を身近な生活の一部として、農家と地域住民とが協力して、維持・保全に努め、その魅力を向上させます。

2 持続可能なまちを育みます

(1) 環境面：緑が保全され、環境への負荷が小さいまちをめざす

- ・都市生活が環境に及ぼす影響は、地球的規模でとらえなければなりません。環境への負荷の増加は、都市経営的にもコストの増加を招く恐れがあります。このため、環境への負荷を小さくする都市空間を形成し、環境的に持続可能なまちをめざします。
- ・豊かな自然環境を保全しつつ、災害に対しても安全な都市空間を形成することをめざします。
- ・現存する緑地は、次世代に引き継ぐ貴重な財産として、市民と行政が協働して保全していく仕組みをつくります。

(2) 経済面：地域が自立できる産業があるまちをめざす

- ・住宅地において、利便性や安全性が高く、文化的な生活を送ることができる住環境を維持・形成していくために、現在の良好なまちの資産の維持更新投資を継続していく必要があります。都市空間の形成にあたっては、まちの適正な規模を維持していくとともに、市民生活や民間の経済活動と公共投資のバランスなどに配慮し、財政的にも持続可能なまちをめざします。
- ・都市近郊における農業や交流に関わる産業活動（文化・芸術、商業・サービス等）の場と住宅地とのバランスの取れた、職住が近接したまちをめざします。

(3) 社会面：多世代が暮らせるコミュニティのあるまちをめざす

- ・少子高齢社会に対応していくために、これまで形づくられた住宅地や新しく形成された住宅地において、さらに、安全で健康的・文化的な生活を支えるコミュニティを育てていくことが課題となっています。多世代が安心して暮らせる、地域のより良いコミュニティを育み、社会的にも持続可能なまちをめざします。

3 一步先を行く みどりと えにしの タウン 緑 縁 区 あさお

- ・優れたまちの資源や質の高いまちの市街地空間を活かし、育むことにより、さらに、一步先を行くまちをめざします。
- ・「一步先を行く」は、現在、麻生区が持っている、優れた特性をさらに伸ばし、作り続ける動きのあるまちづくりをイメージしています。
- ・「緑（りょく）」は、ガーデンシティという言葉があるように、美しい街、憩い、文化、高級住宅地など都市の質の高さをイメージさせます。また、緑あふれる田園、ふるさとの原風景などをイメージしています。
- ・「みどり」とすることで、自然がつくる美しさ、人がつくる美しさを表し、“美”と“ふれあい”をイメージしています。
- ・「縁（えん）」は、縁側の縁であり、出会い、ふれあいや潤い、やすらぎのある暮らしをイメージさせます。

さらに、地縁などネットワークやコミュニティといった人のつながりをイメージさせます。
また、縁日の縁は、活力、華やかさ、人が集まり、交流するまちをイメージさせます。
そして知縁は、知的生産であり、文化、芸術から先端産業まで新しいまちの姿をイメージしています。

- ・「えにし」と読むことで、人と自然、人と環境、人と人（子どもからお年寄りまで、住んでいる人も遊びに来た人も）人と生活（芸術、文化、スポーツ、遊びなど）など、多様な要素が組み合わせられ、共に育み、共に住み続けていくことができるまちをイメージしています。
- ・「タウン」は、ベッドタウンのタウンであり、わが家、わが町など、ヒューマンスケール（人間の尺度）のまちをイメージし、都市的なものと田園、里的なものを兼ね備え、のんびりと歩いて暮らせるまちをイメージしています。